

退職者 NO.95

こだま会報



くらしに生かそう 憲法9条・25条



阿夫利嶺 (横井 博さんの作品)

目次

- ・表紙写真／コラム 散歩……………①
- ・手作り文化祭／薬膳料理……………②
- ・こだま会長寿祝い制度案……………③
- ・楽しい趣味の会…④
歴史教室／こだま俳壇／
- ・会員紹介(鈴木志げ子さん)／こだまサロン……………⑤
- ・かながわ9条祭り／県職員九条の会平和学習会……………⑥
- ・予告／輝け高齢期かながわの集い……………⑦
- ・絵手紙／映画随想／タケちゃんの料理教室……………⑧

散歩道

「2人揃ってあと何回海外旅行にいけるかな」という妻の言葉をきっかけに、「体力がなければ行けない、かつ、初めてのところ」からとなり、昨年の8月28日から9月6日、『スイスアルプスの旅10日間』の2人だけの団体旅行にかけた。

スイスアルプスの旅 感じた「豊かさ」

加瀬 文隆



のは、日本の10分の1の国土に張り巡らされた鉄道網(路線密度世界一、国鉄が6割)、生協の店の多さ(ミグロとコープが小売業の1位と2位)、公衆トイレの清潔さ、環境意識が高い(ツェルマットの駅前には電気自動車と馬車のみ)、対ユーロに対するスイスフラン高(日本円以上だったので、カードの支払いは日本円を選択)、ジュネーブ空港ではフランス語で迎えられ、チューリヒではドイツ語で送られたこと。そして、銀行が昼休みの2時間閉まっていたこと。

人口は約750万人なのに、2700を超える基礎自治体がある連邦国家スイス。11月の国王夫妻の来日で、幸福度世界一の小国「ブータン」が注目されたが、「豊かさとは何か」を改めて考えさせられる旅だった。

最大の目的はトレッキング。グリンドンバルトで3泊し、2日目に、登山電車でユングフラウヨッホの展望台(3464m)に。帰りは「アイガーグレシャヤー」で途中下車し、アルピゲンまでの2駅をトレッキング。翌日はグロツツェシュデックからプスアルプまでの約6時間のトレッキングを満喫した。

雪をかぶったアイガー、モンヒなどの4千m級の山々を見ながらの山歩きは最高だった。

自然の美しさ以外に印象深かった

「効率化・効率化」と市町村合併を進め、中国にGDPを抜かれたと大騒ぎし、TPPに乗り遅れるなど地域と生活破壊に突き進むようとしている日本。震災後の目指すべき復興は、「幸福度、人間としての豊かさ」の国づくりではないのか。

ちなみに、スイス国の標語は「一人はすべてのために、そして、すべては一人のために」である。

※会員の皆様へお願い…住所を変更された時は事務局までご一報を。



神奈川自治労連退職者会

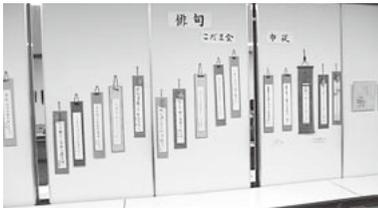
第17回
ふれあい
手作り
文化祭

絵画・写真・絵手紙・
手芸・俳句・書道など
力作ぞろい

合唱や踊りで 熱気ムンムン



ビーズ手芸を出展の高橋さん



こだま句会の俳句



絵画や写真、紙ヒコーキを出展

熱気むんむん。軽食をとりながら、各テーブルで会話が弾みます。舞台では、歌や踊り、リフォーム・ファッション、着付けなどが次々に披露され、御ひねりも飛

17回目を迎えた神奈川自治労連退職者会の「ふれあい手作り文化祭」(昨年11月23日・勤労感謝の日)。会場の横浜市従会館3階には、切り絵や写真、スケッチ、絵手紙、油絵、水彩画、手芸、俳句・短歌、書道など、この1年間の各サークルや愛好会のとりにくみが紹介され、力作ぞろいに皆、食い入るように鑑賞していました。

こだま会からの出展は油絵1人、水彩画1人、写真1人、俳句17人、ビーズ手芸1人、演芸2人、紙飛行機模型1人でした。

演芸会場の4回ホールは満杯で、

食文化を楽しむ会



び、ヤンヤの喝采。「もみじ」などをみんなで合唱し、フィナーレは『阿波踊り』。リズムカルな踊りに、参加者が次々と踊りの輪に加わります。

まさに「ふれあい手作り文化祭」です。来年は、こだま会からの出展をもっと増やして、交流を深めていきましょう。

(鳥海敏雄)

風邪予防の薬膳料理

風邪予防の薬膳料理の会が、亀井禎子会員を中心に昨年の11月24日、横浜市内で開かれました。参加者は初めての方も多く、11人でした。

〈レシピの紹介〉

①生姜入りのご飯

- ② トリのもも肉の酒塩から揚げ
酒と塩をもみ込んだ一口大のトリ肉と、シシトウ、レモンコンの薄切り、マイタケを揚げる。トリは二度揚げ。レモンやスタチをかけて食べる。
- ③ キヤベツ・菊花・白キクラゲなどの甘酢漬
キュウリや細い短冊切り人参、シヨウガの千切りも加える。
- ④ サトイモのユズ味噌あんかけ
白味噌300グラムと赤味噌30グラム、酒、砂糖、みりん各大さじ6、すったユズ1個を弱火でゆつくり練ったユズ味噌は、ご飯につけても美味しい。冷蔵庫で保存すると便利。
- ⑤ シナモン紅茶
紅茶をシナモン粉末で香り良く！甘くて素晴らしいデザートです。

(山本文子)



神奈川県職労連退職者こだま会 「長寿祝い制度の新設と 弔慰金制度廃止」(案)に対する 会員アンケートの実施について



ここ数年、定期総会や幹事会で、「会員のつながりを強めるためには、本人が亡くなってからの弔慰金制度（単身者など把握が困難なケースもある）より、生存中の長寿祝い制度の方が良いのでは」との意見をふまえ、制度見直しの議論をしてきました。その結果、2011年10月18日の幹事会で、下記の（案）がまとまりました。

そこで、会員の皆様の意見を集約し、その意見をふまえ、今年6月開催予定の「こだま会定期総会」にはかり、決定することとしました。

つきましては、同封の葉書のアンケートに記入し、2月5日までに返送下さい。

幹事会の長寿祝い制度（案）

	長寿祝い制度（案）	現行弔慰金制度 （参考）	理 由 説 明
対象年齢	77歳（各年度の4月1日時点で満77歳を迎えた者。喜寿）	なし	最新のデータで60歳の平均余命が男性22.87年、女性28.46年ということから。
対 象 者	・ 終身会費会員 ・ 年会費会員（ただし、会員期間10年以上の者）	終身会費会員のみ	年会費は3,000円であり、終身会費会員とのバランスから、条件をつけて、新規対象とした。
祝い金等	1) 3千円相当の記念品 2) 総会後の懇親会への無料招待	5,000円	会報の発行経費だけで1回約225円。60歳から85歳まで100回受け取るとして22,500円かかる。終身会費25,000円でまかなうとすると、その他諸経費も考え、弔慰金制度を廃止し、祝い金等を設定した。
制度施行日及び経過措置	1) 施行日：2013年4月1日 2) 経過措置：段階的に77歳に引き下げる 2013年度：80歳以上の者 2014年度：80歳・79歳・78歳 2015年度：78歳・77歳 2016年度：77歳		会員の内、80歳以上が約230人、77歳以上79歳未満が約230人という年齢構成をふまえて、経過措置を設けた。

こだま俳壇 (12月)

星空を眺めつくして障子閉す 中村 桂子
 冬晴や夫の精出す外仕事 島田多嘉子
 冬晴や手押し車のひよこ組 三井 光子
 みちのくの訛りに慣れて冬の星 坂 守
 軽やかに冬帽子編む友傘寿 松尾佐知子
 古い病むもなお冬耕す農ごころ 小川 水草
 すじ雲は龍の昼寝か冬日和 白井保次郎
 耳鳴りの聴けば聴こえて冬ざる 佐藤 安弘
 冬日和樹木に亀甲羅干し 井村 友彦
 冬晴や句碑立つ水迎人集う 横川美代子
 膝うずき己一人の炬燵かな 白石 為康
 冬晴や皇帝ダリヤに人だかり 鈴木志げ子
 冬晴や電線地中空広し 木村 武子
 なんとまあ天橋立に冬の虹 田中 一男
 冬麗の猫堂々の散歩かな 鳥海 敏雄
 開戦日曇りのち雨銀杏散る 太田 土男

楽しい趣味の会

趣味の会は、長生きの散歩道

一緒に歩きましょう!!

第51回 寒川神社と梶原景時 館跡を訪ねて

昨年(11月14日(日))10時から15時、女性5人、男性8人の計13人で、寒川神社と梶原景時館跡を散策しました。

はじめに

JR相模線沿線の寒村の地、寒川町には、中世から関東一円に信奉のある相模国一之宮寒川神社がある。

また、鎌倉時代に「寒川一之宮」に居を構えた藤原景時の館跡もある。寒川神社隆盛の秘密は？ また、源頼朝の重臣・梶原景時の生涯は？ これが今回の歴史散策の目的である。



寒川神社の神(桜)門から本殿を望む。例年、正月元旦より「迎春干支ねふた奉灯」がされている



拝(本)殿の前で

②安楽寺 創建は古く、か

〈散策経路〉

①寒川神社(相模国一之宮) 創建は定かではないが、平安時代より「寒川神」(寒河神)といわれていたらしい。現在は八方除の神様として信仰されている。一之宮とは、平安中期に定められたもので、国司が神社の奉拝の順位をつけたもの。相模国には四之宮まである。本殿の裏に、かつて泉が湧いていた。「清い泉」として、この地を開拓した人々が祀ったのではないかと(柳田国男説)。

③応神塚(現在は大神塚) 安楽寺の裏手にある前方後円墳。築造は5世紀前半。かつて寒川神社の祭神が八幡神(応神天皇)であったので、応神塚といわれていた。

④梶原景時館跡 このあたりの一之宮郷は、景時の領地。平家方であった景時は、「ししどの窟」で頼朝を見逃し、鎌倉幕府創建に貢献。頼朝の死後に追放され、寒川一之宮から京に向かう途中、殺害された。和歌をたしなむ文武に秀でた武將。

⑤伝梶原七士の墓 館跡近くに景時の武將七士の塔墓が淋しく立っている。

まとめ

寒川の地は、2千年前、古相模湾の入り口であった。応神塚からこの地を治めた豪族や、この地を開拓した民衆(民百姓など)が寒川神社を信奉し、現在に至ったといえよう。また、古代交通路(日本武尊の道や平安時代の道、江戸時代の中原往還)であったことも大きい。

終わりに拙句を

じじばばも一之宮行く七五三 残菊や景時いづく館跡

扶助子(湯川 勉)



-33-

門出、そして旅立ち

神奈川県立栄

養専門学校を出

た私は、「生活改良普及員」の仕事にあこがれ、神奈川県に就職し、農村に入りました。

戦後の農村婦人は、家の働き手ではなく、家族制度に縛られ惨めでした。何かしたい——若月俊一さん(長野県佐久総合病院院長)の著書を読み、感銘を受け、思い切って尋ねて行きました。

その時の、「人間はセンチメンタルであつてもいいから、ヒューマニストであつてほしい」。この一言が私のバックボーンになりました。

また、「農民に聞きなさい」、農民のためではなく、「農民と共に」の姿勢を学び、農家を駆けめぐり、生活改善について語り、聞き、教えあつたのでした。

働く女性として

結婚して働き続ける女性は少ない時代でしたが、仕事をし子育てをしました。そのための社会的環境、機能は貧弱であり、苦勞をし

ました。

当時は、「結婚したら仕事をやめる」から、「子どもができたら仕事をやめる」時代に。ここから、家庭と仕事を両立させる時代を切り開く

“共に生きる”仲間づくり 笑顔の人

鈴木志げ子さん



手づくり文化祭にて

一人になりました。

女性が連帯して共に歩むことで、今の「男女雇用機会均等法」が出てきたと思います。女性にかかわる二、三の仕事をし、最後は県立勤労婦人

会館の館長を4年務めて退職しました。

こだま会のこと

退職者こだま会では、代表幹事をしました。

その当時、会は脆弱でした。会員と共に、部長もヒラも同じフラットに立つ会として、高齢期の年金、福祉、健康などの問題にとりくみました。

委員会制度を創ったり、上野多恵子さんと薬膳料理、小川政則さんと俳句の会を立ち上げたのは、楽しい思い出です。

退職後、現役時代から習っていた茶の湯を教えたり、地域の人と踊りや箏を習ったり、楽しい時間を送りました。

私の最近の俳句
鍋料理ゆげの向うに猫の顔

健康を第一に ゆっくり、ゆったり

80歳になった時、変形性膝関節症で両膝の手術を半年おきにしました。「人口関節置換術」。遠くさかのぼって、若く村々を駆けめぐっていた頃、夜の座談会のあとオート三輪に同乗して事故に合い、足を痛めたのがもとでしょうか。

今はリハビリで現状維持に努めています。リハビリのやりすぎ、あせりすぎにならないことが大事。82歳の時、老後は子どもの世話にならず、経済的にも自立してやっついこうと思ひ、地域の福祉クラブ生協の経営する有料老人ホームに入りました。

体力を保つよう心がけ、笑顔忘れずに日々です。情報のアンテナを高くし、「高齢社会をよくする女性の会」などに入り、広く情報を得ながら、最近麻雀や編み物を習いはじめ、マイペースで過ごしています。(コア北鎌倉のホームに伺い、やさしい笑顔、でも凛々しい笑顔でお話して下さいました。木村武子・島田多嘉子)



県職員九条の会の仲間たち



大通り公園で「九条まつり」



6周年記念の「平和の集い」



講師の
綿井健陽さん

**身近なところで
憲法を考えよう**
衆参両院で憲法調査会が始まりました。「気がついたら憲法改正案ができていた」とならないよう、憲法を身近な事から活かしていきたいと思います。

(佐伯義郎)

「気がついたら憲法改正案ができていた」とならないために

「九条まつり」& 「平和のつどい」

九条かながわの会・県職員九条の会

私たち県職員九条の会は、昨年の12月で丸6年を迎えました。

私たちの会は、「憲法9条を守る」の思いであつまった、現役の県職員はもちろん県関連職員、家族、退職職員、組合員も管理職も組合員でない人も参加できる会です。

年1回の「講演会」と憲法に関する「学習会」を開いてきました。

「九条まつり」に模擬店出店

昨年は、11月13日の日曜日に、横浜大通り公園で開催された、「九条祭り」(九条かながわの会を中心とした実行委員会主催)に模擬店を初めて出し、挽き立てのホットコーヒーとワイン(チーズのつまみ付き)を提供しました。

「小銭がない」「おまけして」など、初めての経験では

たばたしましたが、完売しました。

県職員九条の会の「5年間の活動」のパネル展示も行い、立ち寄っていただいた会員の皆さんと記念写真を撮るなど、交流を楽しみました。

6周年を記念して「平和の集い」

12月10日には、6周年になる「平和の集い」を横浜市開港記念会館で開催しました。

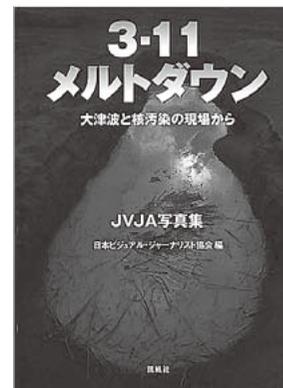
昨年は原発事故があり、放射能汚染問題が深刻になっており、憲法25条にもかかわる問題として、「福島第一原発取材の現場から」の講演。

講師の綿井健陽さんは、「見えない」「危険性を知らない」ことの恐ろしさを、映像で示しながら問い掛けました。普通に生活することを、権利としてとらえる大切さを感じました。

『3・11メルトダウン』 大津波と核汚染の現場から

●02年7月に発足したフリーランスのフォトジャーナリストとビデオジャーナリストの集団「日本ビジュアルジャーナリスト協会」編による写真集『3・11メルトダウン』。県職員九条の会の平和の集いで講演した綿井健陽さんもその一人です。

●フリーの映像ジャーナリストたちが、被災者たちとともに怒り、一個の人間として、大津波と放射能汚染と向き合い、写真集として刊行。他に「3・11日常から非日常の被災地へ」の緊急座談会や、特別寄稿「地に堕ちた核の安全神話」(オーストラリア国立大学名誉教授のガバン・マコーマック氏)も掲載されています。2011年7月刊。



日本ビジュアル・ジャーナリスト協会編/凱風社刊/1800円+税

おすすめの1冊

予告!! 予告!! 予告!!

- 歴史教室(散策) <第52回>
 テーマ 歴史の道コース「称名寺」など
 と き 3月15日(木)
 集 合 京急「金沢文庫」駅改札口
 午前10時
 会 費 500円
 講 師 中村猪一郎会員(予定)
 申込先 こだま会事務所045(212)3179
 又は045(361)0112(佐藤喜治)
- 俳句教室
 月例会(毎月第2木曜日13時~)
 2月9日 3月8日 4月12日
 と ころ 神奈川自治会館又はこだま会
 事務所
 指 導 太田土男先生(俳人協会評議員)
 会 費 500円
 申込先 こだま会事務所045(212)3179
 又は井村友彦0463(81)4493
- 囲碁同好会
 (会場を藤沢市内に変更しました)
 月例会(毎月第1日曜日)
 場 所 藤沢市
 申込先 こだま会事務所045(212)3179
 又は青沼慶祐045(782)7665
- 食文化を楽しむ会(薬膳料理)
 と き 7月予定(詳細は次号)
 と ころ 横浜市健康福祉センター調理
 実習室(JR桜木町駅前)
 テーマ 夏を乗り切る薬膳料理(予定)
 講 師 亀井禎子会員
 申込先 山本文子 03(3728)2227
 亀井禎子 045(332)4601
- 「こだまサロン」(毎月最終木曜日)
 と き 1月26日 2月23日(いずれ
 も14時~16時)
 と ころ かながわ県民センター10階
 「ボランティアサロン」(横浜
 駅西口徒歩5分)
 テーマ みんなで決めてフリートーク
 目 印 テーブルに「こだま会」の表
 示をしておきます。
 問合先 こだま会事務所045(212)3179
 鳥居伸太郎

震災復興支援に名を かりた増税、社会保 障改悪に反対しよう

第7回輝け高齢期かながわの集い in 横須賀

「地域と仲間の連帯で孤独死を防ぎ安心して暮らし続けるまちづくりを」「震災復興支援に名をかりた増税、社会保障改悪に反対しよう」をスローガンに、「第7回輝け高齢期かながわの集い」が昨年11月21日、横須賀市内で開かれました。「こだま会」からは、4人が参加しました。



代表委員・中里龍夫さんの基調報告に続き、中央社会保障推進協議会事務局次長の山口一秀さんが、「税と社会保障の改悪で高齢者の暮らしはどうなる」と題し記念講演。山口さんは、「野田内閣は発足早々、消費税を10%まで引き上げるとの方針を、国民には黙って、世界に向けて表明。国民無視の暴走をはじめた」「復興増税で庶民には8兆円増、大企業には11兆円減税。次々と改悪案を打ち上げる『一体改革』のもとで、野田内閣の『改革』の具体化が加速している」「年金支給開始年齢の68→70歳までの先延ばしなど、小泉政権時代の『構造改革』を上回る社会保障費の削減・大改悪をすすめるようとしている」と強調。図や表を使い、大変わかりやすい講演

基調報告をする中里代表委員

「こだまサロン」 で気軽に交流を

昨年10月27日と11月24日、「こだまサロン」を横浜駅西口からほど近い県民センター10階のボランティアサロンで開設しました。



平日木曜日の午後でゆつたりとした雰囲気です。話題は現職労働組合と知事や職員のこと、私たち世代の子ども(30→40歳代)の就職や結婚の問題、特に子の世代が非正規労働者であったり、未婚で、孫の話題もなかなかできない話、深刻な原発事故と放射能の汚染問題、医療・年金・介護など話題はいっぱい。

「介護のされ方」「遺産相続」「葬送とお墓」など、足と口が達者なうちに、サロンで気軽に意見交換するのはいかがでしょうか。

「こだまサロン」は県民センター10階のボランティアサロンで、毎月最終木曜日午後2時~4時、新年は1月26日に開きます。お気軽にお立ち寄り下さい。(鳥居伸太郎)

